

令和 4 年 5 月 13 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13389

研究課題名（和文）在静岡資料の調査を基盤とした近世和学に関する基礎研究

研究課題名（英文）Basic research on Wagaku studies in Edo period based on investigation of the material in Shizuoka Prefecture

研究代表者

高松 亮太（Takamatsu, Ryota）

東洋大学・文学部・准教授

研究者番号：20634538

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、賀茂真淵の学問を近世中後期という時代に即してどのように位置付けることができるのか、ということを探る作業の一環である。そこで、真淵の故郷であり、門人も多く輩出した静岡県に数多く現存する和学関係資料の徹底した調査を行い、整理することで、研究の基盤を整えた。また、調査を通して得られた情報とともに、各地の図書館に蔵される関連資料を参照することにより、賀茂真淵の学問的活動と遠州の和学者たちの伝記研究に新たな知見を加えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでなかなか日の目を見る機会がなかった原資料の掘り起こしとその整理を基盤とするため、一部の著作に立脚して行われてきた和学研究からは見えてこなかった、和学者たちの新たな足跡や学問的活動の具体など、近世中後期の和学の新たな側面を浮き彫りにすることができたという点で大きな意義を有する。また、本研究は近世中後期における学問展開の様相を明らかにするという問題の解明に向けた基礎作業でもある。一見零細な資料を丹念に積み重ねていくことで、近世の学問史の構築へと繋がっていくものでもある。

研究成果の概要（英文）：This research is part of work to elucidate the question of how Kamono Mabuchi's study is positioned in mid-late Edo period. Therefore, I investigated extant materials in connection with Wagaku study in Shizuoka Prefecture thoroughly and organized them. Through these work, I prepared the foundation of future research. I also added new knowledge related to Kamono Mabuchi's academic activities and biography of Wagaku scholar in Enshu by referring to related materials possessed by libraries all over Japan.

研究分野：日本文学

キーワード：和学 賀茂真淵 田安宗武 石川依平 上田秋成 内山真龍 栗田土満 有職故実

1. 研究開始当初の背景

賀茂真淵は、古代主義・万葉主義を唱えた人物として有名であるが、その研究は、彼の名声に比して大きく立ち遅れている。確かに真淵研究は、小山正『賀茂真淵伝』(春秋社、1938)や、井上豊『賀茂真淵の学問』(八木書店、1943)、山本嘉将『賀茂真淵論』(初音書房、1963)、井上豊『賀茂真淵の業績と展開』(風間書房、1966)など、昭和前期から中期にかけて盛んに行われ、一定の蓄積が備わるし、近年、原雅子『賀茂真淵攷』(和泉書院、2011)や高野奈未『賀茂真淵の研究』(青簡社、2016)が出て、賀茂真淵の古典研究の一端が明らかにされたり、古典注釈と和歌との関係が丁寧に分析されたりし、漸く真淵研究の必要性が見直されてきてはいる。しかし、各図書館の所蔵資料の目録化やデータベース化が進んだ現在にあっても、上記の昭和中期以前の諸研究の枠組を超える真淵研究はさほど生まれていないというのが現状である。この状況を打破するためには、現存する諸資料に即しながら、真淵の学問的活動とその影響を丹念に調べ上げていくほかない。

申請者は、科学研究費補助金(研究活動スタート支援)の助成を受けた「賀茂真淵の『金槐和歌集』評注とその受容に関する研究」(平成24年度～平成25年度、課題番号24820073)で、真淵の実朝評価の内実を明らかにするとともに、真淵評注本系統『金槐和歌集』(真淵説が書き入れられた系統の本)を70点以上調査して、その受容の様相を明らかにした。そこで見えてきたことは、真淵の万葉主義の形成が、同時代の周縁環境と不可分ではなかったことであり、真淵の門人指導のあり方と、真淵の学問が和学者や近代歌人たちの人的・物的交流によって全国各地に伝わっていく有様であった。

その成果を承け、真淵学が後代に与えた影響に迫ったのが、特別研究員奨励費の助成を受けて取り組んだ「近世中後期和学研究 - 真淵学の受容と展開を中心に - 」(平成26年度～平成27年度、課題番号14J07556)である。ここでは、特に上田秋成の文芸作品や、秋成を含めた上方和学者たちの諸活動における真淵学の影響を明らかにすることができた。しかし、中途辞退をする必要が生じたこともあり、真淵学の受容の解明に関しては、上方地域にとどまってしまう、また研究活動スタート支援で問題として抽出した、真淵の万葉主義形成の背景を探ることもできなかった。それでも、静岡県へ資料調査に訪れる機会を得たことで、真淵と門人たちの交流を示す新たな資料や、複数の旧家が所蔵していた和学関係資料の存在を確認することができ、さらなる資料の発掘とその整備が近世和学研究における喫緊の課題であることを確信することができた。

2. 研究の目的

そこで本研究では、在静岡資料を中心とした和学関係資料の調査・収集を通して、賀茂真淵の学問的活動と門人たちの真淵学受容の様相を解明することを目的とする。具体的には、以下の事柄を明らかにすることを目指す。

(1) 静岡県に残る膨大な和学関係資料の把握

静岡県は真淵の故郷でもあり、門人も多く輩出している地である。申請者は既に現地に資料調査に訪れ、賀茂真淵の書簡や和歌添削資料、門人の日記・入門誓詞などの一次資料の存在を確認している。しかし、それらを含めた膨大な和学関係資料に関する詳細な調査は未だ叶っていない。また、真淵の門人はもとより、その孫弟子たちも活躍した遠州地方には、和学関係資料を所蔵されているご子孫も数多く存在する。門人から門人へ渡り、また写されていくという和学関係資料の性格を考えれば、こうした資料の発掘も欠かすことはできない。本研究の基盤として、可能な限りの在静岡資料の調査と分析を行い、それらの性格を把握することを目指す。

(2) 賀茂真淵の学問的活動の実態と意義の解明

従来は、真淵が万葉主義を唱え出した背景を、彼の内的要因にばかり求めてきた観があるが、実は真淵の転身には彼が仕えていた田安宗武の存在が大きい。これは真淵の『金槐和歌集』をめぐる活動から導き出した仮説だが、このような真淵学の内実と形成の背景、およびその同時代的な意義を、書簡や書入本、周辺人物たちの著作を含めた諸資料の分析を通して明らかにしていく。

(3) 真淵と門人、および門人同士の交流の実態解明

在静岡資料には、真淵と門人たちの関係を示す資料はもとより、門人たちの未知なる活動や、門人同士の交流を示す資料も多く存在する。それらの資料は遠州和学者同士の交流を示唆するにとどまらず、遠州の和学者と江戸・伊勢・京都の和学者らとの、人的・物的交流を窺わせる資料に溢れている。これらの資料を整理し繋ぎ合わせることで、彼らの学問的活動と人的・物的交流、さらには学問の影響関係を明らかにすることを目指す。

(4) 後代の学問的著作や文芸作品における真淵学受容

前課題からの継続課題である。真淵学は門人筋によって著作に取り入れられることがある一

方で、批判の対象となることもあった。また、前課題では特に上田秋成の作品と活動における真淵学の受容を取り扱ったが、本課題では特に在静岡資料から見えてくる近世中後期における真淵学の受容、および戯作や奇談などを新たに検討対象に加え、それらにおける真淵学の受容を具体的に明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 在静岡資料の調査と整理

真淵関係資料ならびに和学資料を数多く所蔵している賀茂真淵記念館（浜松市）や、新たに所蔵していることが明らかとなった、掛川市立大東図書館、嵐牛蔵美術館、報徳図書館（以上、掛川市）大竹晴笠家（磐田市）、秋葉神社（静岡市）など、静岡県内の公私の図書館や寺社へと調査を重ね、必要に応じて写真撮影を行う。特に調査対象とするのは、真淵や門人たちの和学書、書簡、日記、紀行文、詠草、添削資料などである。そのうえで、これらの資料を分析し、内容を把握するとともに、既知の資料や従来の先行研究に照らし、これまで見過ごされてきた問題点を抽出する。とりわけ、真淵学と田安宗武の著書との関係や、真淵の詠歌作法と門人指導の実態などの諸課題は、従来の真淵研究や和学研究の枠組を根幹から揺さぶる可能性を秘めた問題であるため、重点的に取り組んでいく。

また、在静岡資料は、真淵門流の和学者のご子孫宅に伝襲されている例が多い。特に掛川には嵐牛や大竹晴笠の師で、門人が300人を数える石川依平がいたこともあり、その友人や門人らのご子孫宅に和学資料が多数伝わっている。そのため、新たな調査先の開拓を進めながら、能う限りの資料の収集に努める。

(2) 在静岡資料と関連する和学資料を併せ用いた、和学者たちの活動の把握

前項で抽出した問題に応じて、在静岡資料とともに検討対象とする和学関連資料を所蔵する機関を訪れ、それらの問題を解決するための資料調査と分析を行う。例えば、上記の真淵と宗武の関係という観点からは、田安家の旧蔵資料がまとまって収まっている国文学研究資料館（東京都）の田藩文庫所蔵資料が逸することの出来ない資料群となる。あるいは、門流の人々の活動を探るうえで、和学者たちの自筆資料を多く所蔵する天理大学附属天理図書館（奈良県）での調査も欠かすことは出来ない。

また、門人300人を抱え、近世後期の遠州で指導者の立場にあった石川依平は、真淵門流の人々の活動を探る上でのキーパーソンの一人である。既に新出の彼の詠草『柳園詠藻』10冊や紀行文の存在も確認できており、本年度に調査・撮影・分析を行い、年譜の作成を開始することで、遠州和学者たちの人的・物的交流を含めた活動と真淵学享受のあり方に迫っていく。

(3) 原資料を含む諸資料の分析をもとにした、後代における真淵学伝播の様相把握

真淵門流に属する人々の中でも、地域や流派によって真淵学の受容の仕方が異なり、さらには本居宣長の学問が隆盛したこともあって、門派間で論争が起きたり、駁論書が書かれたりすることも起こる。こうした資料を紐解くことで、後代の人々が真淵学をどのように受け止め、自身の思想を確立させていったのかという、思想の背景を浮き彫りにすることが可能となる。また、真淵が門人の和歌を添削した資料や門人に宛てた書簡には、詠歌に際して真淵が要諦とした事柄が具体的に書き込まれており、これまで見過ごされてきた歌論の性格や、門流の詠歌と真淵学との関連を炙り出すことが可能となる。

これら生の資料を用いることは、理念的な思想書や歌論書からだけでは見えてこない、和学者たちの思想や詠歌作法における本音とその影響を浮き彫りにすることに繋がるはずである。

4. 研究成果

(1) 賀茂真淵の和学活動

賀茂真淵の和歌添削

門人内山真龍の歌に賀茂真淵が添削を施した詠草を集めた『内山真龍翁関係手帖横巻』（磐田市大竹家蔵）を、当該資料の伝来について考察したうえで、明和年間における両者の交流・間柄を明らかにした。さらに、真龍の詠歌と真淵の添削を俎上に載せ、真龍詠の問題点と真淵の添削方法について分析を行うなど、真淵の和歌添削活動の新たな一面を提示した。

賀茂真淵の門人指導

國學院大學図書館が所蔵する本居宣長宛賀茂真淵書簡を紹介し、解説を行った。特に、『万葉考』出版経緯について新事実が分かること、『古事記』書入本の門人への借覧事情が窺えること、『祝詞考』執筆経過が記されていること、宣長に対して『古事記』研究を勧めていること、真淵の過激な儒教批判が看取できること、音韻論に関する所説が披瀝されていることなどについて、他の書簡や著書と絡めながら説明した。

賀茂真淵の有職故実研究

田安宗武に仕えた和学御用としての賀茂真淵の活動に焦点を絞り、真淵の著述や奥書資料、書入資料などに基づいて有職故実研究に関する真淵の足跡を年代順に辿ったうえで、宗武と真淵

が協力体制を築きながら行っていた有職故実研究の実態を解明するとともに、その成果が真淵の古典注釈に反映されていることを明らかにした。また両者の研究が、当時朝幕間に生じていた復古的潮流のなかに位置づけられることを論じた。

(2) 遠州和学者の足跡

石川依平と栗田土満

静岡県掛川市にある嵐牛俳諧資料館が所蔵する石川依平の紀行文『宇津の山越』を紹介し、その全文を翻字するとともに、その特色について、特に、依平の和学上の師であった栗田土満の最晩年の動静という貴重な情報を有する点、依平・土満と遠州ないし駿州の和学者との雅交や人間味溢れる生活が新たに知られる点などについて解説を行った。

石川依平の校友と詠草

嵐牛友の会会員の増田嘉伸氏が所蔵する遠州掛川の歌人石川依平詠草2枚の紹介。1枚目については、掛川の俳人伊藤嵐牛の師であった三河の俳人鶴田卓池の七回忌、すなわち嘉永五年の詠草であることを指摘した。2枚目については、三河の歌人とおぼしき木村正道の追悼歌会に際して詠んだ歌で、詞書からは二人の生前の親交と、死の報に接した依平の悲嘆が窺えることを指摘した。

本居宣長と内山真龍

嵐牛俳諧資料館に蔵される、新出の本居宣長書簡を紹介し、解説を行った。解説では、まず、石塚龍磨『古言清濁考』出版に関する記事があることから、他の龍磨宛書簡等を参照しつつ、龍磨宛ての書簡であることを確定させた。さらに、『古事記伝』天覧の記事や、寛政二年に宣長が上洛したことにに関する記事に言及したうえで、差出年月日が寛政三年正月十五日であることを指摘した。

本居宣長と栗田土満

嵐牛友の会の参加者増田嘉伸氏が所蔵する栗田土満宛本居宣長書簡の紹介。内容は、天理大学附属天理図書館に蔵される土満の写しによって知られていたが、本書簡はその原本である。解説では、谷川士清や斎藤信幸らの死去の記事によって、本書簡の年次を安永六年(1777)と確定できることを確認し、土満詠草に宣長が添削を加えたこと、表装に際して書簡の一部が欠落していることなどについて触れた。

(3) 真淵学の伝播

上田秋成における真淵の『金槐和歌集』評価の継承

早稲田大学図書館蔵『金槐集抜粹』を紹介したうえで、秋成奥書にある武家歌論を取り上げ、当初歌論的文脈で持ち出されてきた『太平記』の受容のあり方が、晩年に至って秋成の創作モチーフに沿う形で変容していくさまを追った。またその武家歌論の動態が、『春雨物語』稿本間の性格の違いや、寛政期と最晩年の創作意識の径庭、さらには史論・歌論と創作との意識の差異などを背景として生み出されたものであったことを論じた。

上田秋成『春雨物語』における真淵学受容

『春雨物語』「血かたびら」に記された男性の和歌が五七調に、女性の和歌が七五調になっている点について、真淵の歌論の影響を受けた設定であった可能性に言及したうえで、諸本間にある和歌的・学問的要素の濃淡について、秋成が想定している読者による相違であったことを論じた。また、新たに羽倉本が出現したことによる『春雨物語』諸本の理解について私見を提示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高松亮太	4. 巻 97-11
2. 論文標題 歌論と創作のあいだ 上田秋成の武家歌論をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高松亮太	4. 巻 114
2. 論文標題 賀茂真淵と田安宗武 有職故実研究をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近世文藝	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高松亮太	4. 巻 36
2. 論文標題 國學院大學図書館所蔵の本居宣長宛賀茂真淵書簡について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鈴屋学会報	6. 最初と最後の頁 37-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高松亮太	4. 巻 14
2. 論文標題 増田嘉伸氏ご所蔵の栗田土満宛本居宣長書簡について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 嵐牛友の会便り	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松亮太・丸井貴史・網野可苗	4. 巻 21
2. 論文標題 栗田土満最晩年の旅 石川依平『宇津の山越』翻印	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 57-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松亮太	4. 巻 11
2. 論文標題 嵐牛俳諧資料館所蔵の本居宣長書簡	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 嵐牛友の会便り	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松亮太	4. 巻 20
2. 論文標題 賀茂真淵と内山真龍 『内山真龍翁関係手帖横巻』を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松亮太	4. 巻 12
2. 論文標題 増田嘉伸氏ご所蔵の石川依平詠草について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 嵐牛友の会便り	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松亮太	4. 巻 262
2. 論文標題 田安宗武の武家故実研究－『軍器摘要抄』をめぐる－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 191-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松亮太	4. 巻 10
2. 論文標題 揺れ動く『春雨物語』－和歌的・学問的要素を中心に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アナホリッシュ國文學	6. 最初と最後の頁 138-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高松亮太
2. 発表標題 文化ノードとしての実法院
3. 学会等名 「近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の〈場〉」公開研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高松亮太
2. 発表標題 田安宗武と賀茂真淵 有職故実研究をめぐる
3. 学会等名 第138回「書物・出版と社会変容」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高松亮太
2. 発表標題 賀茂真淵の有職故実研究
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高松亮太
2. 発表標題 賀茂真淵の装束研究
3. 学会等名 第54回古典研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 高松亮太	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 536
3. 書名 「奇」と「妙」の江戸文学事典（執筆担当：「義理と意気地と『男色大鑑』」）	

1. 著者名 高松亮太	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 488
3. 書名 木越治・勝又基編（執筆担当：「『小萬畠雙生種蒔』考 二ツ岩団三郎の怪談と読本」）	

1. 著者名 高松亮太	4. 発行年 2017年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 360
3. 書名 岡田貴憲・桜井宏徳・須藤圭編『ひらかれる源氏物語』（執筆担当：「二次創作から読む『源氏物語』 宣長と秋成の作中人物論」）	

1. 著者名 高松亮太ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 320
3. 書名 読まなければなにもはじまらないーいまから古典を 読む ためにー	

1. 著者名 高松亮太ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 156
3. 書名 和歌のタイムラインー年表でよみとく和歌・短歌の歴史ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

賀茂真淵記念館（静岡県浜松市）が開催した2017年度から2021年度の公開講座（記念館カレッジ・記念館アカデミー）において本研究の成果の一部を社会に還元した。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------